

見えてきたアフターコロナの生活様式

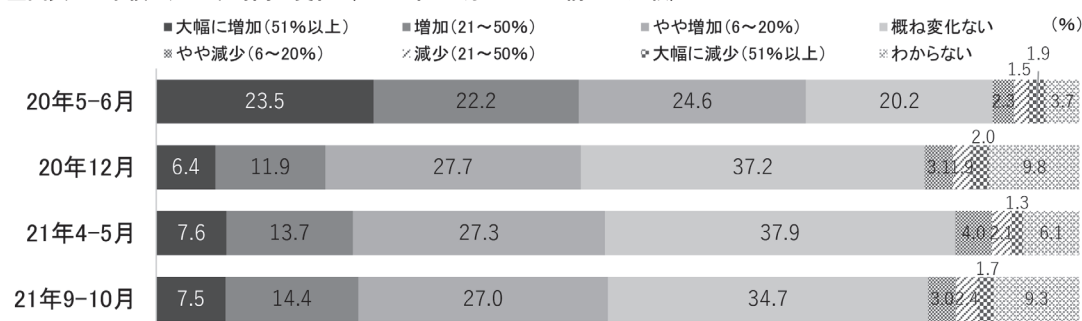
国内での新型コロナウイルス感染症の拡大からはや2年。この間我々の生活スタイルは大きく変化してきた。

第一波、二波の頃は収束後にはほぼコロナ前のスタイルに戻るのではないかという予測もあったが、現在ではこのような予測は少数派となっている。

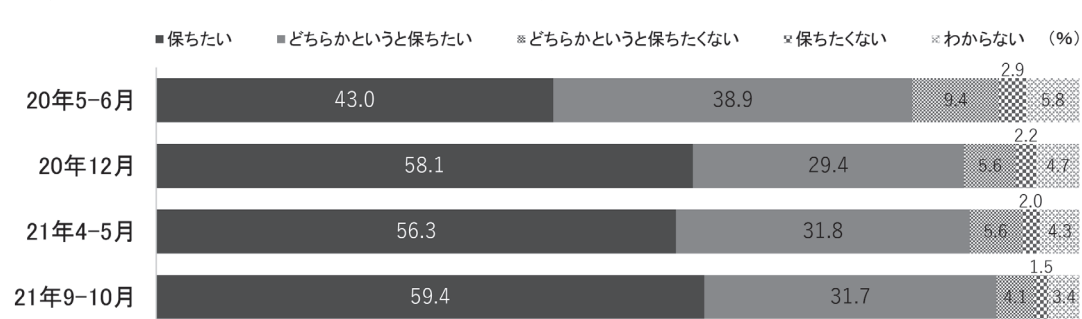
その理由としては、新たな変異株が次々に出現することへの脅威やコロナが完全に収束することへの疑問に加え

て、「今の生活様式に慣れた、維持したい」という人が増えてきていることがある。背景には、テレワークやオンラインショッピングの活用や、自身にとって意義の薄い付き合いがなくなったことが時間の効率化につながるようになってきた点があるだろう。このように非常事態では、必要に迫られてやってみたら意外によかった体験が不可逆的なスタイルに変わる可能性がある。

■図表1 家族と過ごす時間の変化 (2019年12月・コロナ前との比較)



■図表2 現在の家族と過ごす時間を保ちたいと思うか (家族と過ごす時間が増加した人のみ)



出典：内閣府 新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査

内閣府の調査によると、テレワークにより家族と過ごす時間が増加しているが、(図表1) このまま家族と過ごす時間を保ち続けたいと考える人が圧倒的に多く、(図表2) コロナ禍が家族との関係を見つめ直すきっかけとなっている。

この傾向は家事・育児の効率化や家族と過ごす時間の充実に消費が向かう可能性があるだろう。また、男性の家事・育児参加がこれまでより進展する可能性がある。

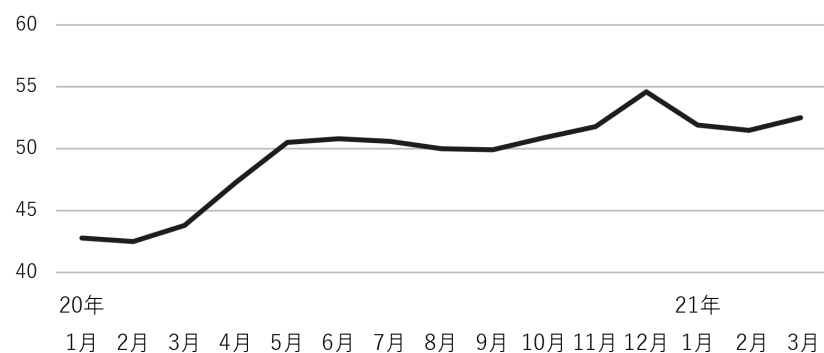
オンラインサービスの利用に関しても一気に浸透している。総務省の調査によると、ネットショッピング利用世帯はコロナ禍以降急速に増加し、二人

以上世帯の半数以上が利用する状況が続いている。(図表3)

そのほか各種イベント、医療、教育など様々なサービスでオンライン化が進んだが、もちろんリアルにはリアルの良さがあることも事実であり、今後は時間や距離の面で利便性の高いオンラインと併用されていくのではないかと見られる。

医療体制の確立や治療薬の開発とともに徐々にコロナの脅威を減らしていくことは可能であるが、現時点で完全に撲滅することは難しいとされている。ウィズコロナで生まれた新しい生活様式は今後ある程度定着するものと予想され、企業・自治体は迅速かつ適正な事業への展開が必要となってくるだろう。

■図表3 ネットショッピング利用世帯の割合（二人以上世帯） (%)



出典：総務省「家計消費状況調査」